

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

鹽野 めぐみ

23

第六幕 第3場

1522年4-5月

マンレサにて

登場人物：	巡礼者	イニゴ・デ・ロヨラ
	慈善院院長	ディエゴ・フェルナンデス
	マンレサの人	イニェス・パスクアル夫人

【語り】 慈善院で一夜を明かしたイニゴのもとに、翌朝イニェス・パスクアル夫人が訪ねてくる。

院長： おはようございます。昨夜はよく眠れましたか？

イニゴ： おはようございます。よく眠れました。いつでも、どこでも眠る訓練をしていましたから、助かります。

院長： イニェス・パスクアル夫人 があなたを訪ねて来られました。善い人と出会われましたね。マンレサでも評判の親切な人です。

イニェス： おはようございます。朝食をお持ちしました。

イニゴ： ああ、それは有難うございます。美味しそうなパンですね。巡礼者にはもったいないほどです。これからは物乞いをして、その日その日の食事を頂こうと思っていますが、願わぬ先に持ってきてくださるとは・・・

イニェス： お食事がお済みになりましたら、昨日お約束した町はずれにある岩穴にご案内しましょう。ごゆっくりお召し上がりください。

イニゴ： ありがとうございます。頂きます。できればその洞穴に籠もって、修行をしたいと思うのですが、そのためには誰の許しを得ればいい

のでしょうか？

院長： 誰の許可もいりませんよ。でもなんでまた、あんなところに行くのですか？ここにいつまでもいて構わないのですよ。

イニゴ： それは有難いことです。何かあったとき帰るところがあると思えば、安心して洞窟に住むことができます。

【語り】 パスクアル夫人に案内されたイニゴは、いくつかの岩穴の一つが気に入り、しばらくそこで祈りながら暮らすことにしました。霊的生活にまだ慣れていないイニゴは、神にひたすら仕え、罪の償いをしたいとの思いが募り、がむしゃらな苦行の生活を始めました。毎日7時間、どこにも寄りかからず跪いて祈り、『聖人たちの華』の中で読んだ聖人たちをまねしながら、厳しい苦行をわが身に課すのでした。

【白衣の天使の合唱】

ああイニゴ ロヨラ城での ^{いさきよ} 潔き 決意貫き

巡礼の 旅を始めし ^{いさお} 功しぞ まこと尊き

イニゴ： ついに 古への聖人たちのように、思う存分苦行し、祈りに打ち込むことができるぞ。人里離れたこの洞窟なら、誰にも気づかれることなく平安に暮らせるというものだ。神に感謝。

【白衣の天使の合唱】

ああイニゴ 父なる神は 真摯なる ^な 汝が回心を

喜びて 受け容れ給い 靈魂に 慰め賜う

イニゴ： 贅沢な生活を捨て、赦されて心も軽く、大空に飛び立ち、思い切り神への賛歌を歌いたい気分だ！

【白衣の天使の合唱】

ああイニゴ 用心をせよ 神からの 慰め去りて

^な 汝が ^{たま} 霊の 試みらるる日 いかにか苦しきものとかは知れ